

鉄道技術開発・普及促進制度の概要

1. 目的・事業概要

【目的】

今後我が国では、人口減や高齢化により働き手が減少し、鉄道施設の経年劣化が進行する中、既存施設の有効活用を図りながら、鉄道の運営や施設の維持管理の効率化・省力化を可能とし、利用者の利便性の向上にも資する鉄道分野での生産性向上を進める必要がある。

【事業概要】

社会環境の変化を踏まえつつ、鉄道事業者側のニーズを取り入れた技術開発の実施及び成果の実用化並びに横展開に向けた取り組みをより一層推進するため、国の主体的な関与が必要なテーマに係る技術開発を行う。

2. 制度の内容

開発者側の経営状況が厳しい等の理由により、従来の助成制度では実用化することが難しい分野について、国がテーマを設定した上で当該技術開発の委託調査を行う。

＜本制度によって取り組む分野の例＞

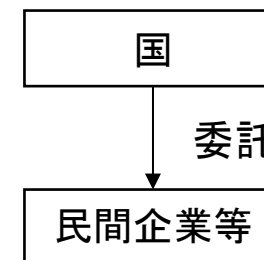
- 鉄道事業者のニーズはあるが、民間主導では開発が進まない技術
- 特に経営が厳しい地方鉄道での導入が求められている技術 など

＜技術開発課題の例＞

- 軌間の異なる在来線間での軌間可変台車の開発
- 地方鉄道向け無線式列車制御システムの開発
- 鉄道車両における次世代バイオディーゼル燃料の実証・評価
- 洗掘被災橋梁の緊急診断法・補強法の提案

3. 委託調査スキーム

実施主体による研究開発・実証実験

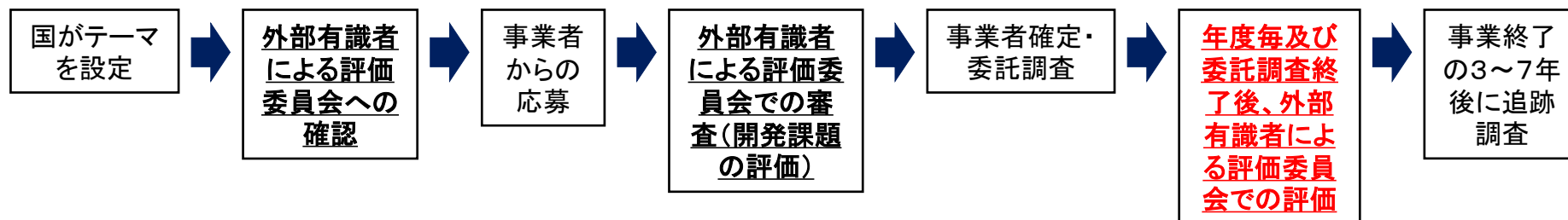


鉄道技術開発・普及促進制度の概要

4. テーマ設定や審査の流れ（概要）

- ①開発者側の経営状況が厳しい等の理由により、従来の助成制度（一般鉄道技術開発）では実用化することが難しい分野について、国がテーマを設定。
- ②テーマに沿った具体的内容につき、事業者から提案・外部有識者による審査
 - ・ 案件の審査にあたっては、外部有識者による評価委員会での評価を実施することで、公平性・透明性を確保。また、評価委員会においては、案件内容の改善に寄与するコメント等の役割も担う。
 - ・ 審査は、国土交通省研究開発評価指針（ガイドライン）に基づき、以下の観点から実施。
 - 「必要性」：科学的・技術的意義（独創性、革新性、先導性等）、社会的・経済的意義（実用性）、目的の妥当性等
 - 「効率性」：計画・実施体制の妥当性等
 - 「有効性」：目標の達成度、社会・経済への貢献等

5. 審査の流れ



鉄道技術開発費補助金(一般鉄道技術開発)の概要

1. 目的・事業概要

【目的】

新技術の鉄道分野への応用に係る基礎的、基盤的技術開発、鉄道の安全水準、環境性能の向上に関する技術開発を促進し技術水準の向上を図る。

【事業概要】

鉄道分野の技術開発者が、

- ①新技術の応用に係る基礎的、基盤的技術開発
- ②安全対策
- ③環境対策

に係る技術開発の課題及びその解決策を設定し、国に対して提案を行う。

2. 制度の内容

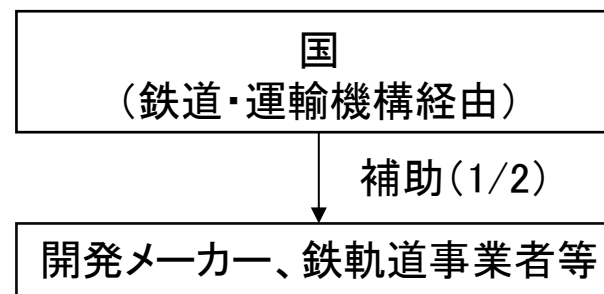
鉄道分野の技術開発者が国に提案した技術開発の課題及びその解決策について、国が支援を行う。

【補助対象者】：鉄道分野に関する技術開発を実施する能力を有する法人

【補助率】：1/2

3. 補助スキーム

鉄道分野の技術開発者による研究開発・実証実験



鉄道技術開発費補助金(一般鉄道技術開発)の概要

4. 審査の流れ (概要)

- ① 鉄道分野の技術開発者が、新技術の応用に係る基礎的、基盤的技術開発及び安全対策や環境対策に係る技術開発の課題及びその解決策を設定し、国に対して提案を行う(応募)。
 - ② 案件の審査にあたっては、外部有識者による評価委員会での評価を実施することで、公平性・透明性を確保。また、評価委員会においては、案件内容の改善に寄与するコメント等の役割も担う。
- ・ 審査は、国土交通省研究開発評価指針(ガイドライン)に基づき、以下の観点から実施。
 - 「必要性」: 科学的・技術的意義(独創性、革新性、先導性等)、社会的・経済的意義(実用性)、目的の妥当性等
 - 「効率性」: 計画・実施体制の妥当性等
 - 「有効性」: 目標の達成度、社会・経済への貢献等

5. 審査の流れ

